



2024年9月4日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ド リ ー ム ・ ア ー ツ
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 山 本 孝 昭
(コード番号：4811 東証グロース市場)
問 合 せ 先 取 締 役 専 務 執 行 役 員 経 営 管 理 本 部 長 牧 山 公 彦
(TEL 03-5475-2501)

(訂正)「2024年12月期 第2四半期 決算説明資料」の一部訂正について

2024年8月14日に開示いたしました「2024年12月期 第2四半期 決算説明資料」について、一部訂正すべき事項がありましたので下記の通りお知らせいたします。なお、開示済みの決算短信等の数値に訂正はありません。また、当社ホームページに掲載している当該資料の数値は訂正反映済となっております。

1. 訂正の理由

「2024年12月期 第2四半期 決算説明資料」の内容に一部誤りがあることが判明いたしましたので、下記の通り訂正いたします。

2. 訂正の箇所およびその内容

別紙をご参照ください。訂正箇所は赤枠で示しております。

(別紙)

- ・2024年12月期 第2四半期 決算説明資料
- P18 2024年12月期通期 連結業績見通し
- 「2023年12月期 通期実績」 「前期比差異」 「前期比増減率」

(訂正前)

2024年12月期通期 連結業績見通し

DreamArts

- ・クラウド事業の成長と適切なコスト管理により、売上高および各段階利益を上方修正
- ・当期を「クラウド事業へビジネスモデル転換を図る仕上げの年」と位置付け「剪定戦略」(※)を遂行も、解約は想定を下回る推移

単位：百万円

	2023年12月期	2024年12月期		
	通期実績	修正業績予想 (2024年8月公表)	前期比差異	前期比増減率
売上高	4,440	5,050	610	13.7%
クラウド事業	3,127	3,904	777	24.8%
オンプレミス事業	597	558	△39	△6.5%
プロフェッショナルサービス事業	715	587	△127	△17.9%
売上原価	2,045	2,200	155	7.6%
売上総利益	2,394	2,849	454	19.0%
売上総利益率	53.9%	56.4%	-	-
販売費及び一般管理費	1,817	2,086	269	14.8%
営業利益	577	762	185	32.1%
営業利益率	13.0%	15.1%	-	-
税金等調整前当期純利益	563	758	194	34.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	424	527	103	24.3%
親会社株主に帰属する当期純利益率	9.6%	10.5%	-	-

(※)「剪定(せんでい)戦略」とは、果樹や苗木の「剪定」(より多くの果実をらせる、または美しい樹形を保つため、風通しを良くしたり根への負担を軽減する目的で余分な枝を切り落とすこと)になぞらえ、将来の負担を軽減するために、一部顧客に対して最新プラットフォームへの移行を促進したり、技術的負債になり得る機能の削減に取り組むこと。

18

1 売上高

クラウド事業は、ホリゾンタルSaaSにおいて新規顧客の大型案件が増加。既存顧客のアップセルも好調に推移。また、期初予想では剪定戦略に基づき一定の解約を見込むも、想定した水準の解約は発生せず。パーティカルSaaSは小規模チェーンの解約、オプションライセンスの一部廃止の影響を受けるが、売上ベースでは期初予想水準で推移の見通し。

オンプレミス事業は、ライセンス出荷が期初予想を若干上回り、メンテナンス解約も期初の想定より低い水準で推移。

プロフェッショナルサービス事業は、剪定戦略に基づくクラウド移行提案を積極化したため、無償稼働が増加し2Qは低調に推移。下半期にかけて多数のプロジェクトが進行中。

2 営業利益

クラウド事業成長に伴いインフラコスト(材料費)が増加するも稼働環境の最適化により原価率が低減できていること、また、販促強化にかかる人件費、広告販促費は増加するも、販管費率は前年同水準で推移することから、営業利益は前期比32.1%増となる見通し。

3 当期純利益

2023年12月期は、賃上げ税制に伴う税額控除を27百万円受けている。2024年12月期修正予想では同控除を見込まず算出。

(訂正後)

2024年12月期通期 連結業績見通し

DreamArts

- ・クラウド事業の成長と適切なコスト管理により、売上高および各段階利益を上方修正
- ・当期を「クラウド事業へビジネスモデル転換を図る仕上げの年」と位置付け「剪定戦略」(※)を遂行も、解約は想定を下回る推移

単位：百万円

	2023年12月期	2024年12月期		
	通期実績	修正業績予想 (2024年8月公表)	前期比差異	前期比増減率
売上高	4,440	5,050	610	13.7%
クラウド事業	3,127	3,904	777	24.8%
オンプレミス事業	597	558	△39	△6.5%
プロフェッショナルサービス事業	715	587	△127	△17.9%
売上原価	2,072	2,200	128	6.2%
売上総利益	2,367	2,849	481	20.4%
売上総利益率	53.3%	56.4%	-	-
販売費及び一般管理費	1,790	2,086	296	16.5%
営業利益	577	762	185	32.1%
営業利益率	13.0%	15.1%	-	-
税金等調整前当期純利益	563	758	194	34.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	424	527	103	24.3%
親会社株主に帰属する当期純利益率	9.6%	10.5%	-	-

(※)「剪定(せんでい)戦略」とは、果樹や苗木の「剪定」(より多くの果実をらせる、または美しい樹形を保つため、風通しを良くしたり根への負担を軽減する目的で余分な枝を切り落とすこと)になぞらえ、将来の負担を軽減するために、一部顧客に対して最新プラットフォームへの移行を促進したり、技術的負債になり得る機能の削減に取り組むこと。

18

1 売上高

クラウド事業は、ホリゾンタルSaaSにおいて新規顧客の大型案件が増加。既存顧客のアップセルも好調に推移。また、期初予想では剪定戦略に基づき一定の解約を見込むも、想定した水準の解約は発生せず。パーティカルSaaSは小規模チェーンの解約、オプションライセンスの一部廃止の影響を受けるが、売上ベースでは期初予想水準で推移の見通し。

オンプレミス事業は、ライセンス出荷が期初予想を若干上回り、メンテナンス解約も期初の想定より低い水準で推移。

プロフェッショナルサービス事業は、剪定戦略に基づくクラウド移行提案を積極化したため、無償稼働が増加し2Qは低調に推移。下半期にかけて多数のプロジェクトが進行中。

2 営業利益

クラウド事業成長に伴いインフラコスト(材料費)が増加するも稼働環境の最適化により原価率が低減できていること、また、販促強化にかかる人件費、広告販促費は増加するも、販管費率は前年同水準で推移することから、営業利益は前期比32.1%増となる見通し。

3 当期純利益

2023年12月期は、賃上げ税制に伴う税額控除を27百万円受けている。2024年12月期修正予想では同控除を見込まず算出。